

合 気 道 の 話



株式会社 松本コンサルタント

宮 住 勝 彦 MIYAZUMI KATSUHIKO

建 設 部 門

1. はじめに

大学時代、合気道部に籍を置いていた。なぜ合気道部に入部したかについては、たまたま同じ高校・大学建築学科の一年先輩から誘われたからである。高校時代部活をしていなかったのも、合気道なら経験者がほとんどなくスタートラインが同じだろうという安易な考えもあった。

しかし、始めてみるとなかなか奥が深く 4 年間ほとんど休まずに練習や合宿に参加した。

3 回生の時には主将（第 14 代）を拝命した。

合気道は柔道や剣道に比較すると新しく、一般的にはあまりなじみのない武道かもしれないが、ここでは合気道の紹介や大学時代の思い出などを述べてみたい。

2. 合気道の歴史

合気道は和歌山県に生まれた植芝盛平（1883～1969）が創始した武道である。彼は大東流をはじめとする柔術・剣術など各武術を修行し、神道などの研究から得た独自の精神哲学で纏めなおし、「和合」、「万有愛護」等を理念とする合気道を創始した。

身長 156cm と小柄ながら大相撲力士を投げ飛ばすなどいくつもの武勇伝があり、不世出の達人とうたわれた。太平洋戦争中は軍部にも有用性を認められ、陸軍憲兵学校・海軍大学校などで武術指導を行った。

戦後は息子で後継者である植芝吉祥丸とともに合気道の社会普及に努めた。そのおかげで合気道は柔道・空手道などに次ぐ国際的武道に成長した。

3. 合気道の技

合気道というと護身術のイメージが強いかもしれない。事実、合気道には試合がない。

練習は、取り（技をかける側）と受け（相手に攻撃を仕掛ける側）に分かれて行う。

相手が攻めてきたときに、相手の力を利用して投げたり関節技を仕掛けたりして相手を倒すのである。

合気道の技には主に関節をきめる一教・二教・三教・四教、相手の力を利用する呼吸投げ・

四方投げ・入身投げ・小手返し等がある。

また、相手が武器を持って襲ってきた時に対応するため、太刀取り・短刀取り・杖取りの稽古も行う。

これらの技は You Tube 等で検索すると動画で見られるので、興味のある方は参考にしていただきたい。

4. 大学時代の思い出

大学が京都だった関係で、大阪合気会（本部：吹田市）の田中万川師範（1912～1988、合気道九段）に指導していただいた。田中師範は戦前の軍事教練で植芝盛平の神業を間近で見て感銘を受け、すぐさま弟子入りしたという愛弟子の一人である。

大学時代、合気道を通じていろいろと貴重な経験をした。そのうちのいくつかをご披露してみたい。

○東京遠征

毎年 5 月中旬に東京大学の学園祭（五月祭）に東大合気道部が行う演武会（合気道の型を披露する会）に参加し、東大との合同練習も実施した。合気道の本部道場が東京都新宿区にあったので、本部道場でも稽古をつけていただいた。

私が主将を拝命していた昭和 49 年の東京遠征時のことである。本部道場に行くと、なんと由美かおるさんが練習に来ていたのである。由美かおるさんはバレエと同時に合気道も練習しており、その当時は確か三段か四段ではなかったかと思う。

我々が練習をしていると由美さんが近づいてきて、稽古をつけてあげるといふ。私はびっくりしたが、これもよい機会ではないかと思い稽古をつけていただいた。私が由美さんの手首を持ったり背中から抱きついたりするのを彼女がさばいて技を仕掛けるのである。技を仕掛けられた時、ほのかな香水の香りがしたのを今でも鮮明に記憶している。

○祭のバイト

京都には三大祭と呼ばれる祭がある。

・葵祭

欽明天皇が五穀豊穰を願って始めたのが起源とされる。下鴨神社と上賀茂神社が主催し、毎年 5 月 15 日に開催される。平安装束に身を包んだ行列が有名。斎王代といわれる女性が地元から選ばれ、女人列の主役となる。

・祇園祭

八坂神社が主催する平安時代から続く祭。疫病が流行した時、これを鎮めるために始まったとされる。毎年 7 月 17 日に行われる山鉦巡行が有名。山鉦巡行では山鉦が交差点を曲がるとき、青竹を車輪の下に敷いて水をかけ、掛け声とともに車輪を滑らせて曲がるのが見どころ。

・時代祭

平安神宮の創建と平安遷都 1100 年を祝うため 1895 年（明治 28 年）に始まった祭。毎年

10月22日に行われ、時代風俗行列が有名である。

ご存じの方もおられると思うが、これらの祭の行列に参加するのは大部分が学生のアルバイトである。各祭とも数百人規模の人数が必要となりそれなりに体力もいるので、学生数の多い大学（我が大学や同志社、立命館等）の体育会（運動系部活をまとめている大学の組織）に募集があり参加者を集める。そのおかげで、私は三大祭に学生アルバイトとして参加することができた。

一番体力を消耗したのはやはり祇園祭である。朝が早い（午前5時集合）うえに暑い京都の真夏の炎天下を歩くので、めちゃくちゃしんどかったのを覚えている。時代祭ではすぐ隣にいた馬が暴れて騎馬武者が落馬し、私ももう少しで蹴られるところであった。

○ミッドナイトウォーキング（夜間歩行会）

我が合気道部の恒例行事にミッドナイトウォーキング（夜間歩行会）がある。これは、左京区にある大学の体育館をスタートし、奈良の東大寺南大門まで約40kmを夜中にひたすら歩きとおす行事である。

1回生から3回生まで数十人が背中に食料や飲み物を背負い、ひたすら奈良に向けて歩く。京都市街を過ぎると国道24号線を木津川の堤防沿いを歩き、最後に奈良坂を超えるとやっと奈良県に入る。

速い人で7時間にかかる長丁場の歩行会だが、途中で体調不良になった場合は4回生が車で救護してくれる。私は3回とも完歩したが、一回生の時は足の裏の皮がズルズルに剥けたのを覚えている。

○フォルカー・シュタンツェル（Volker Stanzel）さんのこと

フォルカー・シュタンツェルさんは1948年ドイツのフランクフルト近郊で生まれた。フランクフルト大学で日本学、中国学、政治学を専攻し、1972年、我が大学に留学してきた。

留学と同時に合気道部に入部し、私と合気道部の同期生である。私の代には彼の他にフランス人の女性も入部しており、国際性豊かであった。彼は留学終了後の1979年ドイツ外務省に入省し、駐日ドイツ大使館勤務、中国大使を経て2009年12月から2013年10月まで駐日ドイツ大使を務めた。

大使在任中の2010年には私を含めた合気道部のメンバーをドイツ大使館に招待してくれた。大使館のゲストルームで大使館付きのコックによるフルコースをふるまってもらい、合気道部時代の昔話に花を咲かせた。外国の大使館などめったに入れない場所なので、非常に貴重な経験であった。

彼は「ドイツ大使も納得した、日本が世界で愛される理由」（幻冬舎）という本を出版しているので、興味のある方は読んでいただきたい。

因みに彼が合気道の初段を取った時、黒帯に書いた名前は「朱丹鶴」である。

5. 終わりに

合気道について学生時代の思い出も含めてとりとめもない話を述べてきたが、私は大学時代に合気道を続けて本当に良かったと思う。合気道を通して精神力が養われたし、合気道を通して先輩・後輩の絆ができたことも大きいと思う。

年に一度11月下旬の学園祭（11月祭）では合気道部の演武会が開催され、その後OB会が開かれる。合気道部の一年後輩に山道裕己という東京証券取引所の社長がいるが、OB会で顔を合わせれば現役の肩書は全く関係なく、「山道！宮住さん！」である。

現代はパワハラだのモラハラなどなかなか上下関係が複雑で難しい時代ではあるが、同じ部活で汗を流し合宿で同じ釜の飯を食った仲間がいるのはありがたい、と最近しみじみと思い返している。年を取った証拠であろうか。